

(5) 学習指導の工夫

「生きる力」の育成を目指した教育活動を行うためには、授業の目的に合わせて、学習指導の展開の仕方に様々な工夫が必要となります。

○ 問題解決的な学習

問題解決的な学習では、児童生徒一人一人が、ある対象や事象に出会い、それに対して既にもっているイメージや知識などに基づいて、問題解決を図っていくことを大切にします。それにより、児童生徒は問題解決に向けて見通しをもち、自分なりの方法で考え判断し、表現するなどの主体的な学びを身に付けていくことができます。

また、このような学習活動を通して、一人一人のよさや可能性が存分に発揮されることとなります。

問題解決的な学習においては、児童生徒が自分に身近な問題を発見したりその解決方法を見いだしたりできるように、どのような対象や事象と、どのように出会うようにするかを工夫していくことが大切です。

○ 体験的な学習

体験的な学習では、見学や観察、実験、調査などを通して、児童生徒が身体全体を使って生き生きと学ぶことができるようにします。児童生徒が自分の感じ方や考え方、取り組み方で自然や社会などにかかわることを通して、一人一人のよさや可能性が発揮されることとなります。児童生徒は、自ら学ぶことの楽しさや喜びを実感し、主体的に学ぶ態度を身に付けるようになっていきます。

なお、体験的な学習においては、教師が一方的に与える体験ではなく、児童生徒の思いや願いの実現が図られる体験、児童生徒が興味・関心をもって自ら取り組む体験とすることが大切です。

○ 地域の人材の活用

児童生徒に豊かな体験をさせるために、授業等において、学校外の人材を学校に招き、児童生徒にその人の体験を直接話してもらうことなどは有効な手立てと言えます。地域に住む人々は児童生徒にとって身近な存在であり、その体験談は児童生徒に感銘を与えます。また、学習内容によっては、学校周辺の公的な施設や機関の職員を招いて話をしてもらったり、指導を受けたりすることも効果的です。

○ 学習資料の精選と活用

各教科等における指導が、児童生徒の主体的・対話的で深い学びへとつながっていくようにするためには、必要な資料の選択が重要であり、とりわけ信頼性が高い情報や整理されている情報、正確な読み取りが必要な情報などを授業に活用していくことが大切です。

また、児童生徒が収集したり、作成したりしたものを授業に活用することも効果的であり、観察や調査、見学の状況を絵、図、イラスト、レポート、新聞などの多様な方法で表現する活動を工夫する必要があります。

ポイント

- 内容の理解を深めたり、追究を促したりするものであること。
- 内容に偏りがなく、調和がとれているものであること。
- 時代の変化に対応しているものであること。
- 児童生徒の発達の段階に応じた質や量であること。
- 児童生徒が選択できる資料であること。

(6) 授業を支える基本的な指導技術

○ 発問

発問は、児童生徒の思考を促し深めることに大きな役割を果たすものであり、課題意識をもたせたり、学習意欲を高めたりすることができることから、授業の中で、適切な発問を行うことが大切です。

【各学習過程における発問の工夫と具体の例】

ポイント

導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・これから展開される学習内容に対して、興味・関心を喚起する。 →「不思議だね。どんな秘密があるのでしょうか。」 ・解決への見通しをもたせるようにする。 →「どのような方法で考えたらよいですか。」
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを明確にする。 →「〇〇さんの考えはこういうことですか。」 →「どのようなことから、そのことが分かったのですか。」 ・友だち同士で考え（方）を比較できるようにする。 →「友だちの考えと自分の考えを比べて、同じことや違うこと、気付いたことは何ですか。」 ・分析的・統合的に考えるようにする。 →「話し合っ分かったことは、どんなことですか。」
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを確実に理解できるようにする。 →「学習したことを、自分なりにまとめてみよう。」

○ 指 名

いつ、どこで、だれを指名するかは、学習効果に大きな影響を与えるものです。また、机間指導において把握した児童生徒の考えを意図的に取り上げたり、広げたりしながら一人一人のよさや可能性の発揮を促すことが大切です。

ポイント

- 日常の観察などを通して、児童生徒のよさや特性などを的確に捉え、それらを伸ばす観点から意図的、計画的に指名する。
- 指名は、同じ児童生徒や、挙手する児童生徒ばかりに偏らないように配慮する。
- 指名した児童生徒の表情を見ながら、発言を大切に扱う。
- 児童生徒の考えがまとまらないときなどは、待ちの姿勢を示し、安心感を与える。
- 児童生徒による相互指名は、教師の意図や学習の目的が反映されにくいことなどに留意する必要がある。

○ 机間指導

机間指導は、児童生徒一人一人やグループ、学級全体の学習状況を的確に把握し、学習目標の実現に向けて、授業展開の方向を探ったり、修正したりするために行います。教師は、指導する目的（だれに、何を、どのように）を明確にもち、児童生徒の学習を支援することが大切です。また、予めつまずきを予測し、それに応じた指導を考えておくなどの工夫が必要です。

○ 板 書

板書は、児童生徒の思考の足跡を含めた授業での学習状況を「残す」ものです。音声はすぐに消えてしまいますが、板書は、考えを述べ合うなどした言葉が記録され、教師と児童生徒が目で見確認することができることから、学習内容の習得を図る上で大切です。

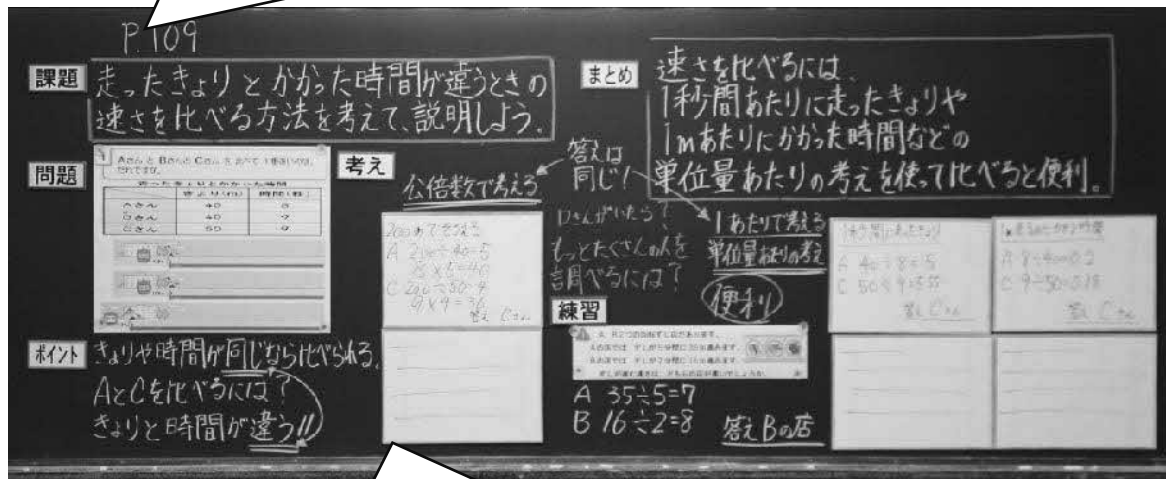
▶板書の役割

- 学習のねらいや学習課題を明示したり、学習資料を提供したりして、児童生徒の意識を集中させ思考を促します。
- 児童生徒の考えや疑問、気づき、発想を引き出し、発展させます。
- 児童生徒の考えを整理し、学習結果をまとめ、定着を図ります。

▶分かりやすく見やすい板書の3つのポイント

- ポイント1 導入、展開、終末の過程により授業の流れが分かるように構成を考えましょう。
- ポイント2 児童生徒の意見や発表が生かされる板書を考えましょう。
- ポイント3 掲示物や小ボード、ICT機器などの効果的な活用を考えましょう。

ポイント1：導入、展開、終末の過程が分かる板書
導入、展開、終末の過程を示し、授業の流れが分かるように板書を工夫する。



ポイント2：児童生徒の意見や発表が生かされる板書
児童生徒が考えたことや意見を書いた小ボード等を板書に活用することで、児童生徒の考えの変容が分かるようにする。

教師が正しく、見やすく「文字を書く」「線を引く」「図を描く」姿を見せることは、児童生徒の学習態度などに影響を与えるものです。特に文字は、正しい筆順で、児童生徒が見て分かるように楷書で丁寧に書きます。

○ ノート指導

ノートには、児童生徒の学習の道筋が具体的な形として残るとともに、学習したことや考えたこと、調べたこと、練習したことなどが記録として残されていることが必要です。

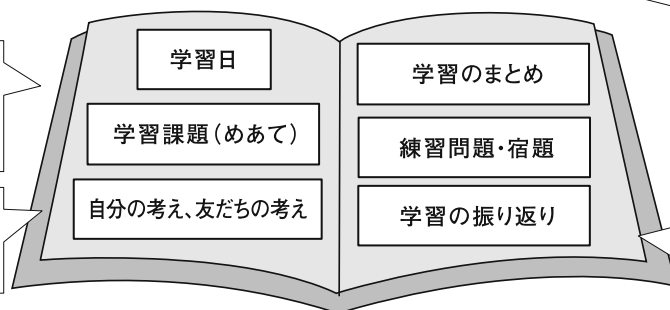
ポイント

- 考えをまとめたり、調べたり、学習のまとめを書いたりするなど、ノートに記録する場面や時間を保証する。
- ノートの構成を効果的にするため、教師は板書の構成に配慮する。
- ノートの使用の約束を児童生徒との間で決めておく。
- 適宜ノートに目を通し、助言や励ましの言葉、感想などを添えて指導・援助する。

具体的なノートの例

児童生徒の発達の段階に応じたノートを使用します。(マス目の大きさや罫線)

「学習課題は赤で囲む」など、書き方のルールを指導します。



必ず記入する項目と位置を決めます。

- 学習日
- 学習課題、問題
- 自他の考え
- 学習のまとめ
- 練習問題 等

定期的にノートを回収し、点検します。

発達の段階に応じたノート指導の例

- 小学校低学年 → 文字や記号の書き方を指導しながら時間をかけて丁寧に書かせます。
- 小学校中学年 → 考えたことや感じたことを項目別を書くなど工夫させます。
- 小学校高学年 → 人の話を聞きながら書くこと、調べながら書くことなどができるようにします。
- 中学校 → 大切だと思ったことや疑問など学習の見直しに活用できる情報を書かせます。
- 高等学校 → 小・中学校で身に付けた技能を確実に活用できるようにします。

計画的に進めるノート指導の例

児童生徒が後で振り返った時に学習した道筋が分かるようなノートとなるよう、学校全体として、児童生徒の発達の段階を考慮したノート指導の方針を明確にすることが大切です。

教師が正しいノートの書き方を見せる

- ・ 実物投影機等を用いて、教師がノートに記入し、その様子を児童生徒に示します。



児童生徒のノートを授業で活用する

- ・ 実物投影機等を用いて、教師がノートを示して説明したり、児童生徒に発表させたりします。



活用しやすいノートの在り方を考える

- ・ 児童生徒が工夫して書いたノートを展示し、多くの児童生徒が参考にできるようにします。

